

# インドでわしも考える

インド通信第32号  
2006年8月発行

## ☆ シェルター（一部）が完成！ ☆



ドナーの皆様、お待たせいたしました。募金の開始から3年以上の月日が経ちましたが、VOICEの念願であった女の子のためのシェルター「サンジバニ」が8月末に完成する予定です。

なかなか進まぬ工事、現地からの情報提供の遅れもあり、一時は計画がうまく進んでいるのか不安を感じていましたが、写真の通り、立派な施設ができました。

シェルターの名前「サンジバニ」は、インドの古典『ラーマヤナ』に由来します。ラーマ王の弟ラクシュマナが、敵の矢に打たれ瀕死の重傷を負います。そこで家臣のハヌマーンがヒマラヤにあるという幻の薬草「サンジバニ」をとってきて、ラクシュマナに与えます。すると不思議なことにラクシュマナの傷はたちどころに癒え、元気を回復したというお話です。

VOICEからの報告によれば、8月31日に25人のストリート・チルドレンの女子を收容し、シェルターの運用を開始します。この時期、インドはまだモンスーン（雨季）。彼女たちにとって、この「サンジバニ」はまさに起死回生の夢の楽園となることでしょう。

「サンジバニ」建設とVOICEの子どもたちの様子は今後も情報が入り次第、ドナーの皆様には報告させていただきます。まずは、これまでの皆様のご厚志に心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

## ☆ You Can Do It! ☆

この夏、わしのインド訪問は「光の教室」から始まった。ここではボンベイ最大のスラム・ダラビ地区の子どもたちの学習と生活支援を行っている。（「光の教室」についての詳細は通信30号参照）

子どもたちの家族はハンセン病患者か、以前にハンセン病を罹患し現在もリハビリを続けている。中には、ハンセン病のために親をなくした子どもや、自分自身がハンセン病にかかって子もいる。K君（9歳）もそのうちの一人だ。

K君ははじめ、ほかの子どもたちが少林寺拳法の練習をするのをうらやましそうな目をして見ていた。病気のため運動することに自信がなかったのだろう。2日目、わしはドクターの許可を得て彼を練習に誘ってみた。

ちょっと不安そうな彼に、ドクターが“Yes, You can do it!” 「大丈夫、できるから！」と声をかけると、K君はうれしそうな、はにかんだような笑顔をうかべて練習に入ってきた。

運動制限のためか、股関節の可動域が狭く、蹴りなどはあまり大きく動かすことはできなかったが、K君は他の子どもたちと一緒に楽しく少林寺拳法の練習に汗を流した。そして、練習が終わると「ありがとう！」とわしの手を両手で強く握った。

”You Can Do It!” 「大丈夫。君ならできるさ！」何とも明るく力強い響きの言葉だ。K君の笑顔とドクターの言葉に、わしの方が元気をもらった。



## ☆ Let It Be! ☆

訪問の目的の2つめはVOICEの子どもたちとの練習である。1年ぶりの再会、果たして少林寺拳法の練習は無事続いているのだろうか？そして、子どもたちは来てくれるのだろうか？期待と不安が交錯する。

練習場所に20分ほど早く到着した。いたいた。そこには以前と変わらぬ懐かしい顔の子どもたちが、昔と変わらぬ暖かさで迎えてくれた。はるばる海を越えてやってきた苦労も、すべてがこの笑顔で報われる。



練習が始まって驚いた。子どもたちの技術が着実に向上している。VOICEの教室はアメリカ人のROBIN氏が引き継いでいる。彼は技の基本を忠実に守りながら、子ども達の目線で指導を継続している。

子どもの一人、ディネッシュの取り組みに明らかな変化が見られた。以前はどちらかというと「何となく」練習に来ていた彼だが、今回は休憩時間も繰り返し技を復習してい

た。

彼は自動車免許を取得しVOICEの専属ドライバーとしての仕事も始めた。そして、小さな子どもたちのためにROBINの指導助手をつとめている。まさに「自己確立・自他共楽」の教えを生活の中で実践しているのだ。

もちろん、すべての子どもがディネッシュのように変わったわけではない。家計を支

えるために VOICE を離れ再び仕事に就いたもの。親の希望で望まぬ結婚をすすめられ、仕方なく故郷の村に嫁いで行ったもの。3 人目の彼女との間に子供ができ、未婚の父になろうとしているもの。まさに人生いろいろだ。

変わる方向は様々だが、どの子どもにも共通していることがある。それは現在（いま）、この瞬間を前向きに、懸命に、明るく、生きているということだ。

写真左の少女バンダナも、VOICE で先生をつとめながら、自らが選んだパートナーとの生活を始めようとしている。（VOICE の指導者は彼女の才能を惜しみ、2 人の若い結婚には反対しているのだが・・・。）

「結婚するんだね、おめでとう！」という問いかけに、バンダナは「ありがとう。がんばります！」と真っ直ぐな明るい瞳で微笑んだ。

“Let It Be!” それは、自分の身に起きる様々な変化をあるがままに受け入れ、あわてず、騒がず、粛々と生きて行こうことなのかも知れない。「バンダナ、これからも一緒に頑張っていて生きて行こうね！」



## 「たくさんの道着をありがとう！」



VOICE で少林寺拳法を学ぶ子どもたちのために、これまでも多くの皆様から使われなくなった道着を寄付していただきました。

今回も東海武専学生会、名古屋なるこ道院、その他たくさんの拳士の皆様から戴いた大切な道着を加藤が直接持参し、VOICE の子どもたちに手渡ししてまいりました。

まだ、道着を手にしていなかった女の子たちは、漢字で名前が入っている真っ白な道着をもらって写真のように大喜びしていました。皆様のあたたかいお気持ちに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



加藤 拓由 個人メールアドレス : [denjirok@nifty.com](mailto:denjirok@nifty.com)  
VOICE ホームページ : <http://www.siu.edu/~asha/svisit/>  
[www.voiceofchildren.org](http://www.voiceofchildren.org)